

4月・卯月(うつき) 卯の花が咲く月「卯の花月(うのはなづき)」を略したもの。十二支の4番目が卯(うさぎ)なので「卯月」いわれるようになったという説もあります。※「卯の花」は「空木(ウツギ)」の別名です。4月の暮らし、エイプリルフール 花見弁当 お団子 ガーデニング 自然 いちご狩り 山菜採り。菜種梅雨 桜前線 花冷え寒の戻り 黄砂 春霞 清明風 発火雨 油まじ(油を流したような静かな日の風のこと) 山笑う(春の山の明るい感じをいう)



プロ棋士の長考(安次嶺隆幸記 私立暁星小学校教諭。公益社団法人日本将棋連盟学校教育アドバイザー)

プロ棋士の対局では、一手に1時間、2時間という長い時間をかけて指し手を決めるということがよくあります。それだけ考えても、実際に指せる手は一手だけ、読みの大半は実際の指し手には表れないのです。その**一見、無駄とも思える読みの時間が、プロ棋士にとってはとても大切なもの**なのです。

莫大な時間を費やしても、指せる手は一手だけ。プロ棋士が一手を指すのに、1時間も2時間も費やしていると聞くと、将棋に詳しくないからすると2時間もの間一体何を考えているのだろうと不思議に思われるかもしれません。こういうとき棋士は「自分がこの手を指したら、相手はこんな嫌な手を指してくるかもしれない。そうしたらこうなって、その先はどうなって…」と、**先の先まで読んで、読んで、読み続けている**のです。

羽生三冠はあるインタビューで読みの数を聞かれたときに、「(読む手数は)直線で30~40手、枝葉に分かれて300~400手」と答えています。激しく動き回るスポーツではないのに1回の対局で体重が3~4キロは減ると言いますから、考える事に費やすエネルギーは大変なものなのです。しかし、**そうやってもすごたくさんの手を読んでも、その読みが全て無駄になってしまうかもしれない**のです。長い時間をかけて考えてはみたけれど、その結果やっぱりこの手はダメだということも当然あるわけですね。むしろダメだという結論に達する手がほとんどです。そうしたらここまで読んだものを捨ててまた一から考えることになるのです。1時間とか1時間半とかを費やして考えた手は、指したいと思うのが人情のような気がします。せっかくなので長い時間をかけて読んだのだから、この際これでよしとして指してしまおう、という誘惑にかられることもあるのではないかと想像します。しかし、その手ではやっぱり駄目だという結論に至り、その手を指すと相手にこんな手を指されてしまう…とわかったら、棋士はその手を全部白紙にしてもう一度読み直しているのです。**もう一度初めから読み直すというのはとても勇気がいる作業**だと思います。しかもプロ棋士が読む手は一手や二手ではありません。何百でも頭の中で読み進めては捨てていく。その勇気たるや、凡人には想像を絶します。

将棋盤の星の意味は (H25. 12. 23に会報に掲載しました。)

将棋盤の星とは、盤面にある四つの点のことで皆さん知っていますか、一般的に「星」と呼ばれています。これは自陣と相手陣を区別する為にあるもので基本的にはそれ以上の意味は無いと思われています。

ただこの星は四つの方向つまり、

- 1)玄武(げんぶ)-----北方の神
- 2)朱雀(すざく) -----南方の神
- 3)青龍(せいりゅう)----東方の神
- 4)白虎(びやっこ) -----西方の神



を表すとの説もあります。古代では偶数を陰、奇数を陽とし陽数のうち最大の数が九で将棋盤は九 x 九、つまり「重陽」となることから盤の広さは一番縁起のよい広さに決めたとされる説もあり、星は盤を九つの空間に分ける位置に有り更に分けられた部分のマス目の数がそれぞれ九になるため陽数を強調したものとの説もあります。

と金こども将棋塾・王将戦結果 (と金・特訓塾) 3月17日(土) 平和が丘コミセン と金こども将棋塾・王将戦大会の結果 (参加者塾生15名) 優勝 山田康雅君 準優勝 山内空太君 第三位 大草歩陸君 (優勝した山田君は3級位に昇・上級Aへ)

3月開催の昇級・新入会者

3月3日開催日分 増渕航君7級昇・上級Bへ、渡辺晃生君9級昇中級Aへ、荒木諒君11級昇・中級Bへ

3月24日開催分 鬼頭直寛君4級昇 山田悠晴君6級昇 竹内航平君7級昇・上級Bへ 鬼頭侑万君9級昇・中級Aへ。

横山寛太君10級昇 岡田晃成君11級昇中級Bへ 久野翔生君12級昇 梅田悠真君13級昇・初級へ。

5月の開催日 愛知東邦大学・アクティブ・ラーニング (食堂) PM1:30~4:20 **と金クラブ将棋教室主催**

5月5日(第1土曜日)・5月26日(第4土曜日) **5月13日(日)・第13回・市長杯・名古屋・小・中学生将棋大会**